

## 資料 No.1

# 平成 29 年度（2017 年度）事業計画書（案）

### （はじめに）

2017 年、公益財団法人鼓童文化財団は、設立 20 年の記念の年を迎える。また、当財団が佐渡市と主催している国際文化交流フェスティバル「アース・セレブレーション（EC）」が 30 周年となるほか、佐渡市の指定管理者として運営にあっている佐渡太鼓体験交流館（たたこう館）が開館 10 年となる。

その節目にあたり、2017 年度は活動の原点に立ち、当財団が目指す公益に利する事業の充実と経営の健全化を両立させ、中長期の事業戦略を描く重要な年になると考えている。

周年の重点分野としては、以下の 3 事業に力点を置く。

#### ■日本海大学構想の実現

「鼓童」の前身「佐渡の國鬼太鼓座」の創設の原点である、1970 年に開かれたおんでこ座夏期学校において民俗学者・宮本常一氏により提唱された、日本海大学構想の実現に着手する。日本海大学は「日本の縮図」といわれる佐渡島において、島内外の様々な人が集い、共に学び、地域の課題解決と持続可能な未来を構想し、実践する「場」である。「深浦学舎」をキャンパスに、社会人向けの研修プログラム「未来の学校」、地域ビジネス塾等を通じて培った、ネットワークとノウハウを活かし、地域の仕事と担い手を生み出す、学びと実践の場としての機能を充実させる。また、地域の伝統文化が継承される、持続可能な集落づくりを提案・支援する。

#### ■エクサドンプログラムの開発普及

佐渡市高齢福祉課、汐彩クリニック森本芳典氏と共同で取り組んで来た、認知症予防プログラム「エクサドン」の講師養成と普及啓発を島外に展開。プログラムの開発においては、医療関係者との連携を更に深化させる。

#### ■鼓童の会会員・支援者との交流の場づくり

鼓童文化財団の支援者であり、鼓童の公演活動の観客である会員・支援者に、当財団の活動に直接触れて頂く機会として、出前エクサドン、佐渡旅行企画等の充実に取り組む。

### （基本方針）

公益活動の充実と経営の健全化

### （実施事業）

- ア. 人づくり
- イ. 地域おこし
- ウ. 芸術文化の振興
- エ. 国際交流
- オ. 広報・ファンドレイジング

## ア. 人づくり

### (研修および体験学習を通じた担い手の育成)

#### (1) 「太鼓芸能集団 鼓童メンバー養成」コース

旧岩首中学校を拠点に、舞台メンバーを養成する研修プログラムの更なる充実をはかるため、太鼓芸能集団 鼓童、株式会社北前船と共に、カリキュラムの深化に取り組むと同時に、運営面での連携を強化する。

- ・ 一年次 4月～1月 約10名
- ・ 二年次 2月～1月 約8名

#### (2) 「エクサドン」講師、サポーター養成

佐渡市高齢福祉課の委託事業として進めている、エクサドンサポーター養成講座では、市民ボランティアの養成とエクサドン活動の普及支援を行っているが、本年で3年目になることから、サポーターの役割と活動の明確化に取り組む。また、島外でのエクサドンの普及啓発の目的で11月に東日本と西日本で、太鼓経験者を主な対象とした種まき型のワークショップを開催する。

#### (3) 深浦学舎

「日本海大学構想」を実現する拠点としての活用を活発化させる。その一つの取り組みとして、佐渡市を通して「特定有人国境離島の地域社会の維持に係る交付金」による補助を受けて、教務室を地域の担い手、起業を目指す若者のシェアオフィスとして整備を行う。また、コーネル大学（アメリカ・ニューヨーク州）の研究者と協働で運営する、研修プログラム「未来の学校」を定着させ、その過程で培った人脈と経験を活かして、日本海大学の中核プログラムを開発に向けて発展させていく。

## イ. 地域おこし

### (地域資源を利用した地域活性化)

#### (1) 佐渡太鼓体験交流館（たたこう館）の運営

佐渡市の指定管理としての運営は終了し、4月からは土地建物の譲渡を受け、当財団の施設としての運営に移行する。この機会に、修学旅行生を中心とした太鼓体験に加えて、施設の立地・機能を活かした飲食の提供等、新たな収入を生むサービスの開拓を行う。具体的には、館内の伝統料理体験室を飲食店営業が可能な設備改修を行いイベント時等のレストランの開業を目指すほか、深浦学舎での宿泊とセットにした体験プログラムの充実を図る。

また、閑散期に島外での出前ワークショップを開催すると共に、エクサドンのノウハウを活かしたヘルスツーリズムのプログラム開発を、一般社団法人佐渡地域観光交流ネットワークと行う。

#### (2) 鼓童 佐渡宿根木公演を中心とした宿根木地区との連携

2017年は春のゴールデンウィークに宿根木公会堂を会場に開催する。

会場がある宿根木地区は、国指定の伝統的建造物群保存地区として近年観光客の人気スポットになっている。しかしながら、少子高齢化の影響で、集落には空家が増加し、人手不足が課題となっている。今年は、本公演も6年目となることから、公演の実施を通じて培った集落の各種団体、佐渡国小木民俗博

## 資料 No.1

物館との関係を更に発展させ、地域資源を利用した地域活性化のモデルとしての当地区の可能性と課題解決に共に、取り組んで行く。

### (3) 佐渡の地域振興に資する各種団体の事務局運営や活動のサポート

- ・ 深浦小学校校舎活用委員会  
旧深浦小学校学区8集落の代表により構成され、閉校後の校舎の活用を推進する委員会。
- ・ 小木湊まちなみの輪  
佐渡小木湊（小木港と共に発展した地域）の歴史を活かしたまちづくりを促進し、地域活性化に寄与することを目的に活動を行う市民団体。
- ・ 佐渡市創業支援ネットワーク  
佐渡市総合政策課が事務局となり、佐渡連合商工会や県内銀行、新潟大学などが連携し産官学で佐渡での創業を支援するネットワーク。
- ・ 佐渡観光地域づくり推進協議会  
佐渡版DMO（Destination Management/Marketing Organization）の創造を目指し、島内の一次産業、観光などの各団体から組織される協議会。佐渡市観光振興課が推進役。
- ・ トキめき佐渡・にいがた観光圏  
佐渡市と新潟市が連携する観光連携事業。全国的な観光地域づくりプラットフォームづくりを目指し、観光庁が推進している。
- ・ 佐渡市キャリア教育ネットワークミーティング  
「佐渡が好きで、社会人になって佐渡で活躍できる人材」を育てる場づくりに貢献するネットワーク。佐渡市教育委員会が主体となり、「佐渡のしゃべり場」など実施。

### (4) アースファニチャー事業

EC2002でのフォーラム「佐渡の森は蘇るか？」をきっかけに始まった実践企画「アースファニチャー」。里山の再生と地域経済の活性化、児童・生徒への新たな環境教育への取り組み。

- ・ 緑の少年団によるベンチの製作

## ウ. 芸術文化の振興

### (伝統文化の調査研究を通じた芸術文化の振興)

#### (1) 佐渡の文化に関する調査研究及び資料収集

郷土芸能の調査研究と資料収集、鼓童の映像資料、寄贈図書、レコード・CDの整理から始まった本事業は、地域振興に向けた研究と実践への取組みに広がっており、深浦学舎に佐渡に関わる図書資料等の閲覧コーナーの設置を行う。

また、調査研究の過程で出会った団体や地域の課題に取り組む活動への参加を通じて、地域の文化活動と地域づくり団体への支援と連携を深めている。

#### (2) 伝統文化・文化活動への支援

- ・ 東日本大震災被災地・郷土芸能復興支援活動（Heartbeat Project）
- ・ 佐渡の集落で継承されている芸能の支援
- ・ 鼓童メンバーに対する、芸能講座、現地訪問の支援

## (3) アウトリーチ活動

鼓童が培って来たノウハウを体現する鼓童名誉団員の活動支援と、新たな創造や普及に繋がる実験的なパフォーマンスやワークショップを通じた活動を進める。また、外部団体、専門家との協働により、そのノウハウの応用、社会貢献に向けた研究活動を行う。

主なもの：

- ・ 鼓童塾
- ・ 芸能の宝島公演
- ・ 研修生と島内中学生の交流学校公演

## (4) 太鼓と医療介護を融合させたメンタルヘルスプログラムの開発

佐渡市高齢福祉課と進めている認知症予防プログラム「エクサドン」を応用させ、社会的な課題になっているメンタルヘルスをサポートする、太鼓芸能を通じた理学療法、作業療法、言語療法、健康スポーツに融合させた研究と実践を、それぞれの分野の専門家と協働で行う。

## エ. 国際交流

### (国際的な文化交流の場づくりと実践)

#### (1) 国際芸術祭「アース・セレブレーション」の実施・運営

30回目の記念開催となる、「アース・セレブレーション2017」は、小木地区での1,000人規模のコンサートを実施するほか、地区の各種団体と協働で町中に賑わいを生み出す企画を運営し、クルーズ船の着岸港としてのニーズの高まる小木港周辺の魅力醸成と活性化に取り組む。同時に、世界遺産登録、国内候補選定を見据えて、相川地区での薪能や佐渡体験プログラムの充実を図る。また、佐渡の玄関口、両津地区での「みなとオアシス」、「さどの島銀河芸術祭」との連携を図るほか、新穂地区での食と芸能をコンテンツとした企画を実施する。

アクセス面では、小木半島循環バスの運行を計画し、港及びイベント会場間のライナーバスを充実させ、両津・相川・国仲地区でのイベント参加者、宿泊者のアクセス向上を図る。東京オリンピック・パラリンピック、世界遺産登録による、インバウンド旅行者の増加を見据えて、英語メディアでの情報発信を拡充させるほか、外国人参加へのサービス向上のため、佐渡市地域限定特例通訳案内士、外国人留学生のイベントスタッフとしての関わりを促進する。

海外からは、ベトナム、ミャンマー、タイの演奏家を招聘する。また、佐渡の歴史や自然に触れる体験企画の更なる充実を図る。

開催期間：2017年8月18日（金）～8月20日（日）

開催内容：コンサート、ECシアター、ワークショップ、レクチャー&デモンストレーション、佐渡体験プログラム、フリンジ、ハーバーマーケット ほか

#### (2) Taiko for Peace

ニューヨークの非営利団体Student Diplomacy Corpsが実施する、高校生を対象とした国際交流プログラムで日本では太鼓をテーマとした地域での交流事業を行っている。当財団では、2014年より深浦学舎

## 資料 No.1

で受入を開始し、太鼓指導、竹箸作り、新潟県立羽茂高等学校の生徒との交流等をコーディネートしている。

### (3) 外国クルーズ船の受入

近年、佐渡では外国船籍のクルーズ船の寄港が増え、乗船客の多くが鼓童を目的に来島する欧米の観光客で占められている。この機会に、鼓童の活動を積極的に紹介すると共に、ファンドレイジングに繋げるべく、アメリカの非営利団体 Kodo Arts Sphere America (KASA) との連携を進める。

2017年予定 Caledonian Sky、Wonder of Japan、NOBLE CALEDONIA JAPAN & SOUTH KOREA

(以上、アメリカ)、SS Bremen (ドイツ)、The World Cruise (世界各国の富裕層)

## オ. 広報・ファンドレイジング

### (広報活動・資金調達の強化)

#### (1) 機関誌の季刊化と内容の充実

機関誌の発行を月刊から季刊に5月号から移行する。編集長を当財団専務理事とし、外部業者に編集実務を委託。鼓童の活動の背景及び当財団の公益活動を客観的に、幅広く伝える読物として提供する。鼓童の会会員への公演情報等のタイムリーな発信は、電子メディアに移行する。

また、海外への情報発信を進める上で、KASAの協力により英語翻訳版のネット発信を目指す。

#### (2) ホームページのリニューアル

2017年4月を目途に、鼓童文化財団のサイトの独立及び拡充を行い、当財団の活動の発信を強化する。特に、研修所の内容を魅力的かつ分かり易く伝え、応募者増につなげる。

#### (3) 企業との関係強化により法人寄付の強化

深浦学舎における企業向け研修プログラム「未来の学校」、エクサドプログラムの開発を通じた企業との連携を通して関係づくりを進める。また、企業の社会的責任(CSR)に対して、財団がノウハウを提供し、協働して社会貢献活動を行うことで相互の関係強化を図る。

#### (4) 寄付のオンライン決済システムの定着化

2014年に導入した、インターネットを利用した決済サービス「PayPal」(ペイパル)による、寄付金収入の増加に向けて、財団ホームページの寄付メニューの整備を行う。

#### (5) インターネット時代の資金調達手法の活用

- ・ クラウドファンディング(インターネットを通じた不特定多数からの資金調達)
- ・ 古本募金「きしゃぼん」(古本を換金して希望の活動団体に寄付)
- ・ ソーシャルフォース(非営利団体向け顧客管理システム)

#### (6) 鼓童の会

- ・ 永年賛助会制度の継続的運用